京都御苑ニュース

秋

伝え続ける、今だ！
京都御苑の素晴らしさ

松谷　茂

昨年度、京都御苑のあり方検討会の委員の一人に選ばれ、とても不思議な縁を感じたところです。

京都御苑と当園は設立の経緯は異なるものの、京都の街の中にあって、ともに貴重な緑空間・やすらぎの場としての公益機能を果たし、その存在を府民の皆様のみならず国民の皆様の前に知っていただくと同時に、御利用いただくべき施設である、という共通点を抱えています。

御所と御苑、設置主体が違うことから当然管理の実態が異なっていますが、そのことは一般市民にはなじみのうすいところで、同一視されているように感じます。

国民公園である京都御苑は自由に行き来のできる場所なのですが、意外といろいろな状況が知られていないことをもったいなく思いますが、何を隠そう、私自身、長く京都に住んでいながら御苑の中味をよく知らず、情けなく反省した次第です。

広さ、空間、緑がいっぱいあることの他、九條池、拾翠亭、閑院宮邸跡など公家町の沿革を持つ歴史的遺産が残っていること自体すばらしい価値ですので、京都にすでにある世界遺産に加えて、誇れる京都の遺産として、後世にまで伝え残し続けていく責務があるでしょう。そうすることの必要性の世間的合意を得るためには、これらの価値、存在の意義などを今一度、広く皆様に知らしめる新たな工夫が必要となるのではないでしょうか。

御苑内にある緑の果たす公益的価値については、数値として学術的に検証してほしいと常々思っています。「安らぎ」、「落ち着き」、「癒し」、「美しい」などの精神的な機能はとても計り知れないものがありますが、「夏や冬の気温緩衝」、「騒音緩和」、「酸素放出」、「空気浄化」などは何かに代替した場合の経済的数値として換算できると思います。「生物多様性ワールド」にはどのような換算方法がよいのか、など、研究者にお任せするしかないと思いますが、「御苑内の緑は、とてつもなく大きな社会的貢献を果たしています。」ということの客観的根拠が欲しい、と思っています。これはイコール、植物園にも当てはまることです。

貴重な植物財産、例えば、桜や梅。品種の名前がわかればそれを表示することで、知的要求を満足させることにつながり、観賞の仕方がずいぶんと変わります。

マツ類の「御所すかし」については、言葉、映像はもとより、実態を伴った京都独特の「技」として残し続けて欲しいと思います。

バリアーフリーの問題など、新しい時代に対応した課題が山積します。わかっていても解決できない人的、財的、物的条件が見えない壁として存在しますが、今大切なことは京都御苑が持つすばらしい価値を伝え残し続けること、かなと思っています。

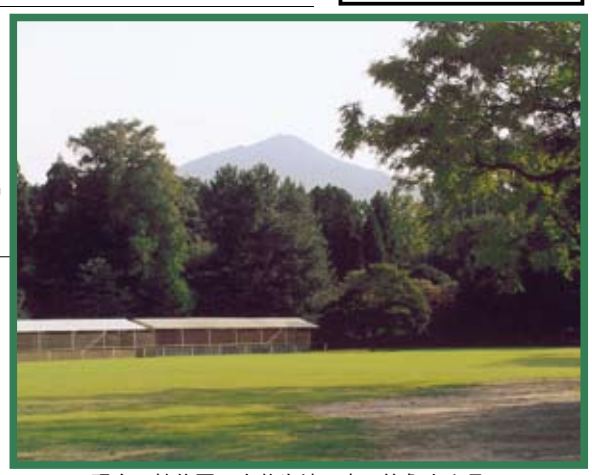
（京都府立植物園園長）

一條邸跡大イチョウ・黄葉

昭和二十年九月、大典記念京都植物園は連合軍の駐留に伴い、その家族用住宅地としての指定を受けた。昭和三十二年十二月十二日、全面返還。昭和三十六年四月、京都府立植物園として再開園し、現在に至る。

この事実は戦後の日本を象徴する出来事の一つと思いますが、京都市においては当初、「京都御所」外苑が指定されたと聞きます。当時、国民感情からもいくらなんでも京都御苑ははなはだ良くないとの陳情を米軍が受け入れ、代替地として指定されたのが京都植物園（現在、京都府立植物園）でした。

接収当時、西に愛宕山を望む植物園

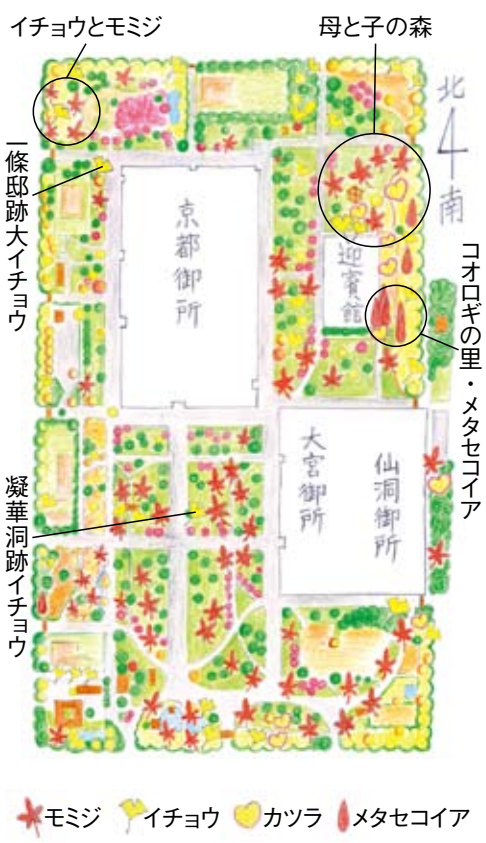

現在の植物園　大芝生地、東に比叡山を見て

現在の御所すかしの作業中

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

京都御苑 紅葉マップ



京都御苑の色づく樹木

イチョウとモミジ

暑い日が続きますが秋の気配を感じる時期となりました。京都御苑には紅葉の美しい場所が多数あります。今回、春の桜マップに引き続き秋の紅葉マップを作成しました。是非鑑賞して頂きたい樹木と場所をご紹介します。

秋を最も体感できる**母と子の森**では、紅葉の代名詞「モミジ」が多く植えられています。また、美しい黄色が一際鮮やかな、大木「イチョウ」。御所に最も近い**一條邸跡の大イチョウ**、風格漂う**凝華洞跡のイチョウ**、母と子の森で仲良く並んだイチョウ（**御里御殿跡の公孫樹**）などがお勧めです。

苑内を歩くと、甘い綿菓子のような香りが漂ってくる場所があります。綿菓子を売っているのではありません。香りの主は「**カツラ**」です。落葉し、黄色く乾燥した葉は甘い香りを発します。ハート形の葉は、葵祭の飾りに使用される歴史の深い樹木です。

また「**メタセコイア**」別名アケボノスギという樹木も見事に紅葉します。迎賓館の東南部コオロギの里に十数本のメタセコイアがあり、落葉した後地面一面に赤く染まる光景はとても神秘的です。

最初に挙げたモミジは母と子の森だけでなく苑内の色々な場所に植栽されています。お気に入りの場所を探してみてはいかがでしょうか。

私の一番のお気に入りスポットは、京都御苑北西部の**イチョウとモミジ**です。ここは苑内で一番遅くイロハモミジが紅葉します。ケヤキとイチョウが落葉した後に紅葉が始まるので、イチョウの絨毯の上に立ち、モミジ越しにイチョウを見上げるとまるでイチョウの大木が赤く色づいているような美しい光景が広がります。苑内の紅葉が終わった直後に訪れてみてください。

《美しい紅葉の条件》
①十分な日当たり
②きれいな空気
③摂氏八度以下の冷気（夜の急激な冷え込み）
④適度な湿度

これらの条件が揃いやすい京都御苑は、街中にも関わらず美しく色づきます。紅葉時期は年・場所によって変わります。苑内をゆっくり歩きお気に入りの紅葉スポットを見つけてください。

（財）国民公園協会
京都御苑
杉林　江里香

自然はわれらを　われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881　京都市上京区
京都御苑３番地
☎075-211-6364
財団法人　国民公園協会
京都御苑　木村博司

編集
白川書院

監修
環境省京都御苑管理事務所

本紙は再生紙を使用しています。

催　事　案　内

■平成21年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記の通りです。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で、秋の自然を観察しましょう。

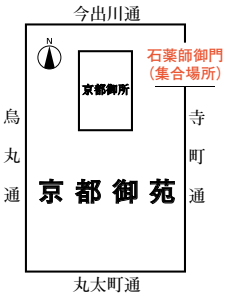
秋の自然教室“秋の御苑にふれよう”

11月22日（日）　9：30～12：00

主　　催　環境省京都御苑管理事務所
㈶国民公園協会　京都御苑

内　　容　京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。秋の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所　京都御苑　石薬師御門前（上京区京都御苑内北東角・今出川広場前）



受付方法　当日、集合場所に午前9:30頃までにお集まり下さい。

参 加 費　無料

そ の 他　筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

問い合わせ　京都御苑管理事務所　TEL 075（211）6348
㈶国民公園協会京都御苑　TEL 075（211）6364

＊以降自然教室予定
冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”
平成22年１月17日（日）　9：30～12：00
詳細は次号でお知らせします。

会　員　募　集

財団法人国民公園協会　京都御苑

年会費
●普通会員　1，000円以上
●賛助会員（会社・団体）　10，000円以上

会員への特典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。
（ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。）
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先
㈶国民公園協会　京都御苑
住所　京都市上京区京都御苑内
〒602-0881　TEL 075（211）6364

御苑の花暦

和　　名	開　花　期	主に見られる場所
ミヤギノハギ	7月～9月	清和院御門外、出水の小川付近
ヒガンバナ	9月	御苑内の各草地
サ ザ ン カ	11月～2月	児童公園付近

御即位20年記念
京都御所特別公開

期間　11月1日（日）~11月10日（火）　9:00～15:30
（清所門の最終退出時刻　16:30）
入口:宜秋門（ぎしゅうもん）　出口:清所門（せいしょもん）
問い合わせ先：宮内庁京都事務所　TEL:075（211）1211

【犬の放し飼い禁止のお知らせ】

京都御苑内でリードをつけずに犬を散歩させたり、遊ばせたりしている方がいますが、原則公共の場ではリード等につないでおくことが、条例で義務づけられています。特に京都御苑には幼児など犬を怖がる利用者もいます。愛犬家の皆様は、必ずリードを使用されるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

環境省京都御苑管理事務所
上　京　保　健　所
上　京　警　察　署

【環境省京都御苑管理事務所よりお知らせ】

平成21年4月及び7月付けで以下の体制になりました。引き続きよろしくお願いします。

所　　長	植田　明浩
庶務科長	横川　拓郎
庭園科長	中西　甚五郎
普及指導企画官	八元　綾

京都御苑のトンボ

谷　幸樹

ベニイトトンボ

京都御苑のトンボは二〇〇八年八月までの調査により、三十九種が確認されていますが、今後さらに調査をすればさらに増えると思われます。

京都御苑には、トンボ池・九條池・閑院宮邸跡等多くの池があります。また、流水はわずかですが、閑院宮邸跡水路・出水の小川等もあります。これらの池や小川には、四月から十二月初旬までの間にトンボが活動しています。

トンボ池が造られた一九九四年～一九九五年には、ショウブやガマを中心とした水草だけで、広い水面が見られたのでヨツボシトンボが多く見られましたが、一九九六年頃よりハスが一面に繁茂するハス池になったために広い水面を好むトンボが減少してしまいました。今ではモノサシトンボ・アオイトトンボ・オオシオカラトンボ・リスアカネ等のトンボが見られ梅雨の時期は、モリアオガエルの産卵した卵塊がみられます。

京都府企画環境部が出版している「京都府レッドデータブック上巻野生生物編」によるとトンボでは、準絶滅危惧種に入っているベニイトトンボとナニワトンボの二種を京都御苑で確認しています。

ベニイトトンボは、全長二七㎜～三二㎜で♂は全身あざやかな朱赤色をし♀は橙褐色をしています。浮葉植物の多い池にみられますが、この種が生息していることは、安定した良い池がある証明にもなります。このような種を環境指標生物といいます。京都御苑では、六月上旬から十月上旬まで見られます。

ナニワトンボ

ナニワトンボはアカネ属の仲間ですが、♂は成熟すると青白い粉を吹く世界でもただ一種だけの珍しいアカトンボで日本特産種です。大阪で発見されたので「浪華トンボ」と名付けられました。このナニワトンボがいつまでも生息できるように京都御苑の池を保全していきたいと思っています。

ところで、トンボが交尾をする前には、かならず連結をしますが、皆さんはこの連結態のときに前が♂か♀かのどちらであるかご存知ですか？

実は♂の腹部末端の尾部には、上付付属器と下付付属器があり、ピンセット状になっていて、♀の前胸や頭をはさんで連結するので前のほうが♂です。知っていましたか？

♂の副性器は腹部第二・三節にあるので、♀が腹部を曲げて生殖弁を副性器にもっていき交尾をしたときはハート状になります。ぜひ観察してみて下さい。

モノサシトンボ・交尾

京都御苑でトンボの摂食やなわばりや産卵などの行動を観察するのも楽しいものです。

「京都御苑のトンボ」を京都御苑自然現況調査報告第六集に紹介をしていますので、トンボに興味がある方は読んでみて下さい。

（京都自然観察学習会）

自然散策

八月も下旬になると、酷暑の中にも夏の終わりを感じます。九條池も心なしか、照り返しに夏の強さがなくなりました。でも、池の縁にある、御苑の夏を代表する樹木「百日紅（サルスベリ）」はまだ、燃えたぎるような百日の紅を惜しげもなく披露し続けています。一日花とも言われています。一本の木にどれぐらいの花を、この夏つけるのでしょうか。数えたくとも、気の遠くなる話です。

九條家の茶室、拾翠亭では床柱にこのサルスベリの曲げ木が使われています。見事なねじれを見せ、落ち着いた中にも華やかな空間を作っています。

高倉橋から眺めた拾翠亭、サルスベリが咲いているこの季節は、最も絵になる季節かもしれません。五摂家九條家がこよなく愛した風景でもあるのでしょう。過ぎ去ろうとする夏の香りに歴史が被さってきます。

香りを胸に吸い込みながら、トンボ池まで足をのばします。盛夏に見事な花を咲かせていた「蓮（ハス）」、その花托はすでに蜂の巣状になり黒い果実ができています。あれほど花に集っていた虫たちはどこに消えたのでしょうか。ハスの葉に隠れていた池面も随分と見えるようになりました。レンコンがハスの根である事は意外と知られていません。美しい花に奇妙な根菜、不思議な世界です。浄土の世界とは？　ふと、そのような事を考えてしまいます。水の音だけが聞こえます。季節の流れを生き物たちは敏感に感じているようです。夏から秋へ、新たな出会いを求めて自然散策は続きます。

（財）国民公園協会
京都御苑
鳥居万恭

拾翠亭のサルスベリ

御苑みどころ案内

・十月二日（金）
　三日（土）
・午前九時～
　十一時三十分

秋のトンボ池等をご紹介します。当日現地へお越しください。スタッフが随時解説を行います。